

**学年報告****学年通信「牛歩」を通じて**

金澤 裕二  
Yuji KANAZAWA

**1. はじめに**

平成21年4月7日に588名の生徒が本校に入学した。私はこの生徒たちの学年主任として、3年間、学年を運営し、生徒たちの成長を見届けてきた。この年に入学した生徒たちは國學院高校の長い歴史の中で、新制服に変わったという大きな転換点に入学してきた生徒である。3年間で退学した生徒も少なく、多くの生徒たちが充実した3年間を過ごし卒業していった。そこで、この3年間の学年運営について学年別に分けて報告する。

**2. 3年間の卒業までの目標**

学年をまとめ、3年間を通して卒業まで導いていくために、まず大きな目標をつくった。それは「全員が國學院高校を卒業すること」であった。その大きな目標を見据えて、各学年ごとに、また目標をつくった。

1年生では「学校に慣れること」であった。これは中学校から高校へ進学し、環境が変わったことによって、なかなか高校生活になじめずに体調を崩したり、バランスを崩してしまうことがあるので、なるべく、はやく学校生活に慣れることが1年生では重要であると考えた。

2年生では「旅行的行事の充実」であった。これは高校生活の中で最大の行事である修学旅行を充実させることが主眼であった。4泊5日の長きにわたり、クラスメイトと寝食を共にして過ごすことは、17歳の若者にとってはかけがえのない経験であり、忘れられない思い出となる。卒業した先輩たちと話をしても修学旅行を「思い出深い行事」に挙げる先輩が多い。だからこそ、ただ行って、楽しいだけではない、修学旅行ならではの体験ができるようなサポートを考えた。

3年生では「進路実現の支援」であった。大学付属高校である國學院高校では毎年100名以上の生徒が國學院大學に進学する。また、指定校推薦を含めると200名以上の生徒が推薦入学で大学に進学する。一方で300名以上は一般受験で大学に進学することを考えると、推薦で進学を決めた生徒が学習への意欲を失わないことが大切となる。そういう支援を中心に進路実現を考えた。

### 3. 各学年の取り組み（1年生）平成21年度

#### 1学年 学級編成

組	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	合計
男	23	23	23	23	23	23	23	23	24	24	24	23	23	302
女	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	286
合計	45	45	45	45	45	45	45	45	46	46	46	45	45	588
選択	音楽選択								美術選択			書道選択		

#### ①入学式

平成21年4月7日に588名の新入生を迎えて入学式を挙行了。天候にも恵まれ、校舎内の桜もきれいに咲く中で、588名全員が出席できたことは非常に良かったと記憶している。私は入学式に配布された國學院広報のなかで、新入生に『心の声』と題して、次のようなはなむけの言葉を贈っている

「新入生のみなさん、入学おめでとうございます。たくさんの期待と不安を胸に今日、國學院高校の校門をくぐった事と思います。これから過ごす三年間が充実したものになることを切に願っています。さて、新入生のみなさんは自分の心の声に耳を傾けたことがありますか。自分が声に出して発するものだけが自分の考えているすべての声とは限りません。学校生活が始まり、忙しい日常の中で、つつい自分の本当の気持ちや考えを忘れてしまったり気づかないこともあります。高校三年間では自分の思い通りにはいかない事や、辛いこともあると思います。自分の本心とは違う言動をとってしまい非難されたり、怒られる事もあるかもしれません。そんな時こそ、落ち着いて自分の心の声に耳を傾けてください。自分自身を見つめ直してみると、自分のすべきことが、はっきりとわかり前に進むことが出来るはずです。

自分の声とともに大切にしなければならないのは、共に学校生活を送る友人や先生の声です。他人の話聞く姿勢は良好な人間関係を構築すると共に自分の心声を聞くことにもつながります。

入学直後の希望に満ちたみなさんの心の声が聞こえてくるようです。充実した三年間を一緒を過ごしましょう。」

#### ②学年目標

「学校に慣れること」という目標を実現するために、入学当初にたてた学年目標は次の3点である。

(1) 本校の教育目標である「三楽」を理解し、國學院高校の生徒としての自覚を持ち、常

に落ち着いて人の話を聴けるようにしよう。

- (2) 学習に対する向上心を持ち基礎学力の充実を図ろう。
- (3) 周囲の人々への思いやりの気持ちを持ち豊かな人間関係をつくろう。

第1の目標のポイントは「話を聴く」ことである。特にこれは1学年の目標というより3年間を通しての目標であり、常に生徒たちに伝えていったメッセージである。学校では校長先生をはじめ、多くの先生方の話やクラブの先輩方の話、クラスの友人の話など、今までとは環境の違う人たちの話を聴くことになるので、それらの話を耳で聴くだけでなく、心で感じ取るようになってほしいということである。

第2の目標のポイントは「基礎学力の充実」である。学習は高等学校の学校生活の大部分を占めるものなので、1学年では基礎学力の充実をあげ、じっくりと基礎固めをすることが大切になるということである。

第3の目標のポイントは「人間関係の構築」である。学校生活や学習に落ち着いて、取り組んでいくためには、まずは友人との良好な人間関係が欠かせないことになる。そのためには自分から笑顔で話しかける勇気が必要になるということである。

学年目標は「お飾り」にならないようにするために、3年間を通して、学年集会があるたびに、話の中に挿入していった。行事や学期の節目などに実施される学年集会で、学年目標を織り込むことによって、生徒の意識の中に浸透していくことを狙ったものである。

### ③校外研修

入学直後の行事として校外研修が4月23日から2泊3日の日程で行われた。この行事は國學院高等学校を理解するとともに、新たに出会った友人と良好な人間関係を作り、前向きな高校生活を送るスタートラインと位置付けられている。主な内容は以下の通りである。

- ・全体ミーティング、クラスミーティング「人生で大切なものは何か？」

全体で導入となるような話を生徒たちに聴かせて、その後、クラスに戻って具体的に話し合いを行った。難しいテーマではあるが、まじめにクラスメイトの話に耳を傾ける姿が伝わってきた。

- ・全体ミーティング「校歌練習」

校歌を歌う機会は限られており、入学直後に全員で練習できることは重要である。

- ・全体ミーティング「学校長の話」「学年主任の話」「生活指導部長の話」「人生で大切なもの」
- ・クラスミーティング「人生で大切なもの」

全体ミーティングをきっかけとして、各クラスで「人生で大切なもの」を話し合った。

・クラスミーティング「クラス目標の決定」

1組 one is for all is for one

か かけがえのない仲間とともに

ぞ ぞんぶんに楽しむ

く クラスにしよう

2組 「笑仲勝楽」 笑って仲良く学校行事で勝利し楽しく

3組 「GO MY WAY」 各々が目指すものは違っても、その過程に焦点を当て、クラス全員、切磋琢磨し、互いに高めあおう。さらに身近な自分の目標にするため各自サブタイトルを付けています

4組 「メリハリをつける!! 笑顔を絶やさず、良い思い出を作れる行事にしよう  
学校のこと(勉強・部活)をちゃんとやろう」

5組 「瞬輝永魂」 毎日ベストを過ごす、他のクラスに負けないクラス

6組 「絆～頂点～」 いつまでも忘れない充実した高校生活

7組 「男女仲良く協力し合えるクラスを目指そう」

8組 「爆楽輝新」 爆—エネルギーに 楽—楽しく

輝—輝くように 新—新しいことに挑戦を

9組 「「けじめのある自由を使いこなす」

10組 「完全燃笑」

11組 「勉強と部活の両立～青春～」

12組 「しっかりとけじめをつけ

たのしく努力をし

らいねんになっても後悔せず

1日1日をむだにしないクラス」

13組 「一日千笑」笑いの絶えない明るいクラス

・オリエンテーリング

「ヤマハリゾートつま恋」敷地内を各クラス、各班に分かれて、クイズを解きながら散策し順位を競った。

・ドッジボール大会

クラス対抗のドッジボール大会

・班員同士のメッセージ交換

最終日に班員同士でメッセージを書いて交換した。クラスの間関係をつくる第1歩だった。

全員が校外研修の感想を記録しているが、おもな感想文を紹介する。(1学年 学年通信第2号)

私は、この研修を通じて多くのことを学び、たくさんの思い出を作ることができたと思います。特に友達と過ごす時間が多く、人とかかわりの大切さや楽しさを強く感じることでできる3日間になりました。

1日目はバスの移動が長かったですが、その時もレクリエーション委員が一生懸命「この人だーれ？」の司会をしてくれて、とても楽しく過ごすことができました。それに、このゲームを通して同じクラスの人のことを知ることができました。ホテルに着いてからは先生方の話を聞き、とてもためになったと思います。特に学年主任の金澤先生のお話は今後の学校生活の役に立つものでした。

2日目はドッジボール大会・オリエンテーリング・クラスミーティングなどイベントの多い1日でした。ドッジボール大会ではみんなで協力して楽しむことができました。男女の総合結果は2位で、1位は逃してしまいましたが、いい結果だったと思います。オリエンテーリングでは今まで話したことのない人と一緒に行動することができて、少しはお互いのことを知ることができたと思います。それにいつも話をする友人とも長い間一緒にいることで、普段は見ることのできない一面を見ることができて良い経験になったと思います。クラスミーティングでは班での話し合いやクラスでの意見をまとめたりして、いいクラス目標を作ることができました。それもホームルーム運営委員の頑張りのおかげだと思っています。

3日目はいよいよ最終日。長いようであつという間に過ぎた3日間でした。とても充実した3日間だったなあと心から思うことができました。

私は最初出発する時は、ちゃんと友達と仲良くできるのか不安でいっぱいでした。しかし最後の日にはもっといたい！と思うほど楽しく過ごせました。いつもの学校生活とは違う環境で生活することによって、私は様々なことを学ぶことができたと思います。

#### ④体育祭（平成21年度 本校校庭実施）

本校の体育祭は学年を縦断して色別で優勝を争うものなので、1年生は先輩たちの後姿を見て、応援合戦や装飾や競技に参加した。

高校に入学して学校全体の行事に参加したのは初めてだったので、國學院高校の雰囲気を感じることができたはずである。特に3年生がリーダーとなったブロック別の応援合戦に参加した1年生は、気持ちを一つにしてひとつのものを作り上げることの難しさを感じ取ることができ、良い経験になった。

##### 体育祭 結果

総合	第1位	青組・黄組	第3位	緑組		
応援合戦	第1位	赤組・紫組	第3位	白組		
装飾	第1位	青組	第2位	紫組	第3位	緑組

### ⑤伝統芸能鑑賞教室

6月17日に国立劇場で伝統芸能である歌舞伎を鑑賞した。作品は猿之助一門の『華果西遊記』であった。孫悟空の演じたマジックに目を見張り、孫悟空の子供版がたくさん登場したときには、思わず多くの生徒が顔をほころばせた。

全員が歌舞伎の感想文を提出しているが、主な感想文を紹介する。(1学年学年通信 第3号)

ゴダイゴの「MONKEY MAGIC」と共に幕が開き、歌舞伎鑑賞教室が始まった。人生初となる歌舞伎の鑑賞。

「しっかり、この目に焼きつけなくては！」と自分に言い聞かせ、演技を見入った。ここからは具体的な感想に入ろうと思う。まず一つ目は一人一人の演技力のクオリティの高さである。特に女形の声には私は釘付けになってしまった。その声に男性らしさは無く、美しく気品のある女性の声そのものだった。「どうやったらあんなに綺麗な声が出せるんだろう？」や「どんな練習をしているのだろうか？」といろいろな疑問が頭の中を飛び交った。

二つ目は衣装・舞台の華やかさである。孫悟空一行が着ていた衣装が特に美しかった。女王の着物もそうだが何より個性的でとてもおもしろかった。キャラクターの表情を100%引き出していると言っても過言ではないだろう。舞台のほうはたくさんの方が使用されていて、とても見ていて楽しかった。黒の情景になったときは、とても暗い感じがでてとても感心した。

最後になる三つ目は歌舞伎そのものを変える裏方の人たちの仕事ぶりである。黒子や上手や下手で楽器を演奏する人たち、その他の人たちが素晴らしい働きをしていたことに私は感動した。様々な技術を駆使し、陰で支えている。やはりこういう人たちがいるからこそ、ひとつの歌舞伎というものができあがるのだろう。

人生初の歌舞伎、私としては多くのことを学べたよい機会だったと思う。2回目に、もう一度観たら今度は別の視点からの意見が出るかもしれない。素晴らしい日本文化に触れられてよかったと思う。

### ⑥文化祭(平成21年度、国高祭「思うだけでは伝わらないこと」)

平成21年度の文化祭(国高祭)はインフルエンザ流行によって開催そのものが危ぶまれたが、生徒たちの思いと教員の思いが通じ、実施することができた。閉祭式における学校長の「ありがとう」という一言に、今年度の文化祭が苦勞を乗り越え、教員と生徒がひとつになって成功させたものであることが窺がえた。

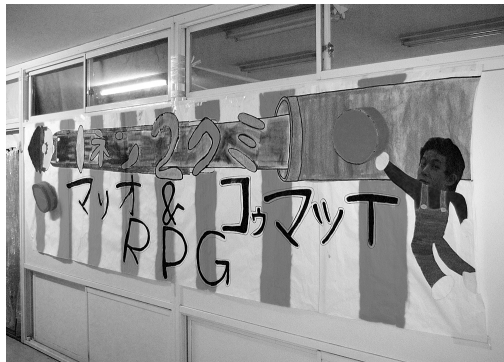
1年生にとっては、体育祭に次ぐ学校全体の行事であり、先輩に引っ張られて参加した感のある体育祭とは異なり、各クラスで、それぞれ文化祭に参加した。いろいろな考え方を持つ生徒の集合体であるクラスで、ひとつのものをつくりあげることは大変なことであり、完成まで

到達するのは困難なことであったはずである。しかしすべてのクラスで趣向を凝らした作品が出来上がり、生徒たちも文化祭の準備から発表までの期間で、体験したことや達成感は大きな財産になったはずである。

以下に各クラスの発表内容と参観した感想を掲載する。(1学年 学年通信 第5号)



1組 演劇 「真夏のサンタクロース」



2組 展示 「マリオ&コウマツT RPG」

まずもってストーリーがしっかりしているの  
で約50分間じっくり見入ってまいりました。  
5人のサンタの小気味よい会話に絶妙の効果  
音もあって素直に笑えました。お父さんの手  
紙を夏希に渡すラストシーンは本当によかつ  
た。座席の後ろでカンペを出しているところ  
もクラスで作っている感がありました。そして  
学年優勝おめでとうございます。

夏休みから準備の取り組みはすばらしかつ  
た。9月に入ると教室の中は準備で作成した  
もので溢れていました。

展示教室の中に入るとまさにスーパーマリオ  
の世界でした。教室の中の内装は本当によかつ  
たです。でも中で第一歩を踏み出すのが正  
直怖かった。椅子に乗ったらマリオが出てく  
るかと思いました。BGMがあったらなあ。



3組 演劇「女王様の教室」

女王の教室のパロディか、とにかくこわーい先生の話。登場した女装の男子の演技力と迫力と声の大きさがとにかく印象に残りました。最後は夢の中だったという落ちもよかったです。3組はクラス全体で作っている感じがすごく良く出ていました。



4組 演劇「獅子王」

廊下の装飾は色もはっきりしていてとても綺麗でした。舞台の背景の絵もとてもしっかり描けていました。獅子王はもちろんライオンキング。衣装をつけるともっと良かったと思います。シンバの幼馴染のサライエヴォって何？という印象が残りました。



5組 演劇「ホーンテッドクラス 恐怖の館」

2本のオムニバス形式で1本目はよく出来ていて、とても怖かった。その後のトルーマンのものまねも、面白かったです。二本目は最後にスリラーをダンスでみんなで踊っていました。みんなで踊っているクラスはここだけでクラスの一体感を感じました。



6組 演劇「シンデレラ」

シンデレラと桃太郎が一緒になったストーリー。とにかくこのクラスは作ったものがすごい。まず大道具、特に馬車は大きくて立派でした。そして色気たっぷりの女性が身に着けた衣装も手作りとは思えない出来栄で話も面白くて王子の演技力は最高でした。学年第2位おめでとうございます



7組 演劇 「クラウドズ～入学3ヶ月～」

舞台は帝王学園。帝学統一をねらって抗争が繰り返される。オカマキャラがでてきたり、関西弁を上手にセリフにいれたりして面白い場面が多く、思わず笑ってしまいました。最後は夢だった、という落ちもよかったです。学園物なのに女子が一人も舞台上がっていないことも意外でした。



8組 展示 「MOOVIES 8組」

新しい映画や古い映画について色々調べて発表していました。ハリウッド映画の撮影地のことが模造紙に書かれていたり、ハリーポッターについては関係するさまざまなものが上手に展示されていました。よく調べてあるという印象が強かったです。



9組 展示 「プラネタリウム 晴雄星達」

このクラスはプラネタリウム。教室には大きな手作りのドームがつくられていて、よく出来ていると感心しました。ドームの中に入ると天井がきれいに星達で輝いていました。ドームには調べた内容が模造紙に書かれて貼ってあり、よく出来ていると思いました。みんなでお客さんの呼び込みも頑張っていたので楽しそうでしたね。



10組 演劇 「1年10組の事件簿 アリス殺人未遂事件」

このクラスの劇は、まず舞台の使い方がすごかった。舞台を直線ではなく教室の角を使った「くの字」型に作ってあるので場面展開に奥行きがあってわかりやすくとてもよかったです。劇の内容も衣装も照明もよく出来ていて完成度は高かったと思います。賞をとってもおかしくない内容でしたね。



11組 演劇 「ワケ有り♥白雪姫」

このクラスの白雪姫はワケ有り白雪姫で、とにかく面白い。上演中ずっと笑っていた感じがします。この世で一番美しいのは誰？という決まり文句のあとに鏡の中から飛び出てくる網タイツのキャラクターとお母さんのかけあいは特に面白く白雪姫が男の子というのもまた、かわいくてよかったです学年第3位おめでとうございます。



12組 展示 「Around The Earth」

このクラスはプラネタリウム。教室の外と内をとにかく暗い夜空にして廊下の装飾も綺麗にしてありました。教室内に入ると手作りのドームが作られていて、ドームの中に入るとプラネタリウムの機械がぐるぐる回っていました。残念ながら星が床に映っていましたが手作り感が伝わってきました。



13組 劇 「羅生門～La☆Show Men」

このクラスは羅生門の世界を独特の視点で上手に表現していました。入場前に懐中電灯を渡されると、いざ羅生門の世界に進入。お化け屋敷のようですが決してお化け屋敷ではなく、羅生門の恐ろしい世界が上手に表現してありました。でもお化け屋敷が苦手な人はちょっと怖いかもしれませんね。

### ⑦ 1年生 2学期の進路選択

1年生の大きなテーマは「学校に慣れること」であったが、これに加えて2学期は「進路を考える」ことが、もう一つの重要なテーマであると考え、夏休み明けの学年通信で次のような文章で進路選択について考える姿勢を啓蒙した。

「人生序盤の豊かな選択」（1学年 学年通信 第4号）

40日間に及ぶ長い夏季休暇が終了しました。高等学校に入学して初めての夏休みは充実したものになったでしょうか。クラブ活動や学習に一生懸命取り組んだ時間、友人と共に過ごす時間は有意義だったに違いありません。また中学時代の友人と旧交を温めた者も多いことでしょう。さらに久しぶりに帰省して祖父母の顔を見てきた者も多いと思います。そんな夏休み真っ只中の8月1日の朝日新聞「天声人語」に次のような一節がありました。

『子供たちにとっても、来るべき開花に備えて多くの芽をつけるのが夏休みである。遠い日を思えば、親や先生が教えてくれないことは山ほどあった。8月の過ごし方ひとつで世界は広がり、人生序盤の選択が豊かになる』

國學院高校の1年生のみなさんも、この夏休みに様々な経験を積み、開花に備えて芽をつけてきたことと思います。そして2学期は文理選択という人生序盤の重要な選択をしなければなりません。その選択が豊かなものになるように1学年の教員はサポートしていきたいと考えています。

1年生の2学期の大きなテーマは「進路を考える」ことであった。文系コース・理系コースのどちらを選択するかは、その後の大学進学や職業選択にとって重要な意思決定になる。そこで学年集会や総合学習などを利用しつつ最良の選択ができるようにサポートした。

9月7日 総合学習 オープンキャンパスに参加した感想などをクラスの中で分かち合いをした。

9月28日 学年集会 文理選択全般の話、どのようにして文理選択をしていくか。

10月28日 総合学習 職業研究 身近のおとなへのインタビューを通じて職業調べを行った。

11月11日 学年集会 文系コース希望者を対象に教科別の説明会

11月12日 学年集会 理系コース希望者を対象に教科別の説明会

11月 日 総合学習 仕事観研究

11月中旬 三者面談 進路希望調査用紙配布（大学出張説明会開催）

### ⑧生活指導面の取り組み

1年生も2学期になると学校生活にも慣れ、良い意味では生活が安定して、クラブや学習に打ち込むことができるようになる一方で、悪い意味では、生活指導が必要なこともあられ

る。この時期は特に、下駄箱のいたずら報告が多くあり、学年各クラス統一で注意を喚起した。また、学年通信の紙面上で「思いやりの心が芽生える時」と題して生徒たちに呼びかけをおこなった。生活面の改善は注意をするだけでなく、様々な角度から話を聴かせることが大切だと考えて、取り組んでいった。

#### 「思いやりの心が芽生える時」（1学年学年通信 第7号）

2学期も中間考査が終了し、はやいもので11月を迎えました。これから少しずつ神宮外苑の銀杏並木の葉も色づいていきます。登下校やクラブ活動の時間に時には空を見上げて秋の空や銀杏の木々をながめて季節の移り変わりを感じる気持ちのゆとりを持てるといいと思っています。

先日の学年集会で久しぶりに1学年の学年目標の話をしました覚えていますか。目標の中のひとつに『周囲の人々への思いやりの心を持ち豊かな人間関係を作ろう』というものがありました。思いやりの心は人から持ちなさいと言われて持てるようになるものではないと思います。では、どんな時に思いやりの心が芽生えるのでしょうか。誰かに優しくされたとき、誰かのことを好きになったとき、誰かに傷つけられたとき、人それぞれの状況は違っても共通して言えることは、人と人との関係の中で自然と身についていくものだと思います。だからこそ相手の立場で物事を考え、相手を気遣いながら築いていける人間関係が大切になります。何気ない人との会話や日々のやり取りの中で自然と身についていく事柄は思いやりの心だけではなく多岐にわたると思います。1年生のみなさんが同級生との関係の中で少しずつでも成長していくことを願っています。

現在1学年では時々下駄箱での靴への「いたずら」が報告されています。些細な「いたずら」でもされた側は心を痛めているにちがいません。1年生587名は縁あって國學院で学んでいる家族のような仲間です。お互いが思いやりのある優しい心と、周りの人の事を考えられる気持ちのゆとりを持って学校生活を送っていきましょう。

#### ⑨合唱コンクール

例年11月に実施される音楽クラスの合唱コンクールだが、この年はインフルエンザの流行により学級閉鎖が相次いだため12月に延期された。選曲から練習、本番にいたるまで各クラスが大変な思いをして本番を迎えたが、各クラスのカラーが良く表現されたコンクールとなった。多くの行事で生徒たちが感じたことを大切にできるように学年通信でも呼びかけている。

## 合唱コンクール結果

第1位 8組 第2位 1組 第3位 2組



優勝クラス 8組  
自由曲「春に」  
指揮 高橋 真央  
ピアノ 清水 明日

声量も豊かで、何より合唱にメリハリと強弱があるので、聴いていて、テンポも良く、とても印象がよかったです。さすが優勝クラスです。

## ⑩スキー教室

インフルエンザや雪不足で実施が心配されたスキー教室が、12月21日から無事に実施された。本校のスキー教室はプロのインストラクターに依頼せず、教員が直接指導するという形態で開講以来、長年実施している。この教室ではミーティングやクリスマス会などを通じて、スキーの技術だけを学ぶのではなく、スキーの楽しみを先生と生徒が一緒になって経験できるものである。



クリスマス会にはサンタさんが登場



林間コースを滑っています

## ⑪総合学習

1年間の総合学習（進路学習）は大きく4つに分かれて実施された。

- (1) 自己理解 校外研修における班員からのメッセージ・自分史作成
- (2) 社会研究 社会研究新聞作成
- (3) 文理選択 オープンキャンパス参加、レポート作成及び発表

(4) 仕事観研究 大人へのインタビュー、職業調べ、仕事観レポート作成

総合学習は進路学習という位置づけでおこなわれるものであり、1年生は特に、今後の進路を考えるうえで重要な判断材料になると考えて取り組ませた。もちろん各自の進路を考える視点は重要であるが、班内でのミーティングや発表を通じて、コミュニケーション能力を高めるという視点も合わせて指導していった。

⑫球技大会

前日までの雨の天気予報を覆し、晴天のもと球技大会が実施された。生徒の希望でバスケットボール・ドッジボール・ミニサッカー・バドミントンに分かれて生徒たちは春の一日を生徒たちは大いに楽しんだ。年間生活の中でこのような行事があることは生徒たちの成長に欠かせないことだと考えられる。

球技大会 結果

総合1位 9組・12組 総合3位 7組

種目別成績

男子バスケットボール	優勝	9組	女子バスケットボール	優勝	6組
男子バドミントン	優勝	9組	女子バドミントン	優勝	12組
男子サッカー	優勝	13組A	女子ドッジボール	優勝	7組



男子バドミントン スマッシュ!



女子ドッジボール エイヤー!

⑬学年集会

1年生では、入学当初から、それぞれ節目となる時期に、学年集会を数回実施した。学年集会は、ただ集まるだけでなく、その時々で学年全体に知らせておきたいことを生徒たちに語りかけた。入学間もないころは國學院高校とはどういう学校であるかということや、高校生としての心構えを話した。長期休暇の前には、どういう休暇を過ごしていくかを話しかけた。進路選択にあたっては、何を考えて進路を決めていくかということを話しかけた。そして3月の最後の学年集会では今年度で退職される先生が1学年の担当だったので、その先生に1年生全員

の前で話をしてもらった。長年、本校で教鞭をとった先生の話聴くことは意義深く、生徒たちには、こういう話を大切にするように指導した。

#### ⑭ 1学年のまとめ

入学式発行の学年通信第1号では、最初に学年目標を3点掲げた。まず第1の目標は常に落ちていて人の話に耳を傾けることであった。年間を通じて生徒たちは、よく人の話に耳を傾けることができた。ただ学校生活やクラスにも慣れてきて、中には話を聴く姿勢が欠如していった生徒もいたことは事実である。第2の目標は基礎学力の充実をはかるということであった。実力考査の成績も例年に比べてよい結果を残したし、再考査受験人数も少ないことから第2の目標はある程度達成できたと思われる。第3の目標は思いやりの気持ちを持ち、豊かな人間関係を作ることであった。長期欠席者もほとんどいないこの学年の生徒たちは学校生活を楽しみ、豊かな人間関係を作ることができたとおもわれる。

入学時に588名で始まったこの学年の生徒であるが、2年生に進級した生徒は585名であった。1年生の大きなテーマは「学校に慣れること」だったので、退学者が3名だけであったのは、生徒たちが学校に慣れ、学校生活をしっかりと送ることが出来たあらわれであると思われる。

#### 4. 各学年の取り組み（2年生）平成22年度

##### 2学年 学級編成

組	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	計
男	19	19	19	19	33	19	31	32	18	19	18	18	18	19	300
女	23	23	23	23	11	23	12	11	22	22	22	23	23	23	284
計	42	42	42	42	44	42	43	43	40	41	40	41	41	41	584
選択	文	文	文	文	理	理	理	理	文	文	文	文	文	文	

#### ① 学年目標

2年次の大きなテーマは、高校生活最大の行事である修学旅行があるために「旅行的行事の充実」を掲げたが、それとともに2学年の学年目標を3点あげた。

- (1) 中堅学年としての自覚を持ち、集中して人の話に耳を傾けるようにしよう。
- (2) 継続した学習習慣を身につけるとともに進路について考える姿勢を持とう。
- (3) 友人との会話を大切にして豊かな人間関係を作るとともに学校行事に前向きに取り組んでいこう。

第1の目標のポイントは1年生の目標でも掲げた「人の話を聴く」ということであった。3

年間を通して落ち着いて話を聞くことが出来るようになってもらいたいという思いがあったので、継続して掲げた。1年生の1年間はよくできていたが、慣れてきた3学期は朝礼などで私語が目立ったときもあった。今年度はさらに学校生活に慣れて、話を聞く姿勢が欠如してしまう場面も出てくるかもしれないので、どんな場面でも聞く姿勢は大切にしなければならない。そのために2年生の目標では第1の目標に新たに「集中」という言葉を付け足したわけである。

第2の目標のポイントは学習に対する姿勢である。1年生では基礎学力の充実という目標を掲げたが2年生ではこれに「継続」という言葉を付け足した。学校生活に慣れて、中だるみから学習習慣が欠如していく生徒もいるので、日々の学習をコツコツと継続していくことが2年生にとっては大切なことである。

第3の目標のポイントは1年生でも掲げた豊かな人間関係を作ることである。2年生では「友人との会話」という言葉を付け足した。コミュニケーション能力はこれから成長していく生徒たちにとって、とても大切である。携帯メール全盛の時代だが、文字だけでは伝わらないことはたくさんあると思うので、学校では友人との「生の会話」を楽しみ、豊かな人間関係をつくることを狙ったものである。

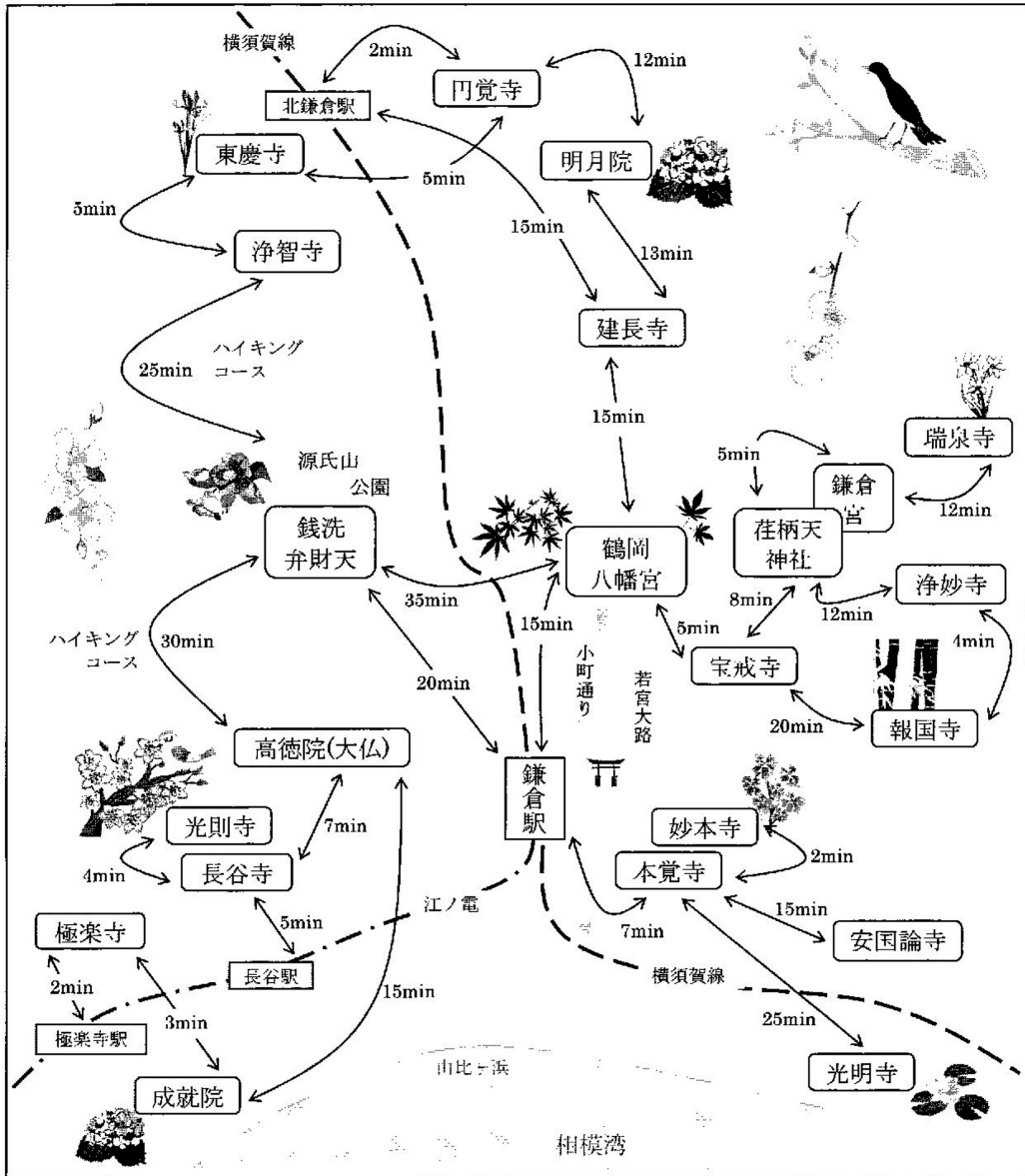
## ②校外教授（鎌倉）

2年生最初の学校行事は鎌倉自主研修である。2年生の大きなテーマは旅行的行事の充実であり、4月の鎌倉自主研修は秋の修学旅行の予行演習として考えた。そこで生徒たちが自主的に研修するコースを考えられるように國學院高校オリジナルのガイドを作成し、早めに生徒たちに配布した。自主研修のコースを作成するときにもいつも困るのは見学地と見学地の間の移動時間がどのくらいであり、また見学にどのくらいの時間が必要であるかという情報である。そこで実際に現地へ赴き所要時間を歩測してガイドを作成し、無理なくコースを考えられるように工夫した。

下記の地図は鎌倉の見学可能地域を示したもので、生徒はこの地図の中から見学地を選んだ。

見学地と見学地の間は徒歩で何分かかるかを表示して見学コースを組み立てやすくした。

下の文章は見学地の紹介の一部で、見学目安時間を入れている。(2学年 学年通信 第2号)



**本覚寺** 見学目安10分

日蓮上人が一時身を寄せた夷堂があったとされる場所で、日蓮の遺骨が納められています。また、商売繁盛・縁結びの神である夷様が祀られています。

**妙本寺** 見学目安15分

かつて鎌倉で勢力を誇った比企一族の屋敷跡に建立されたカイドウで知られる古刹は、様々な花と緑に溢れ、心の安らぐ雰囲気です。

鎌倉校外教授の当日はあいにくの雨であり、また4月とは思えない寒さの中であったが、生徒たちは、思い思いの自主研修を楽しんだようである。感想文も単なる感想にとどまらず、項目を設けて書かせることによって、自主研修を意義深いものにするとともに、修学旅行の自主研修につながられるようにした。

以下に、主な感想を掲載する。(2学年 学年通信 第3号より)

#### 自主研修コースを決める上で重視したこととその理由

鎌倉の歴史を感じることができるよう、私たちが知っていたお寺、寺社から知らないところまでコースに交えて鎌倉探訪のコースを作りました。

#### 寺・神社を巡り、一番印象に残っている場所とその理由

印象に残っているのは報国寺というお寺です。報国寺は竹やぶやお茶が有名で多くの自然に囲まれたスポットでした。とても空気がきれい、パワースポットという感じでした。

#### 全体を通しての感想

2年生初の行事として鎌倉を訪れてみて、今までと違ったものを発見することができました。有名な鎌倉大仏以外にも沢山の寺社があり、古き良き鎌倉を体全体で感じられました。雨という悪天候の中だったけれど海風や澄んだ空気を感じながらのコース巡りは、とても気分の良いものでした。班員や他のメンバーとも様々な交流ができ、良い2年生のスタートを切ることができたと思います。半日という短い時間で巡るのは大変だったし、もっと楽しみたかったです。そして次の体育祭では、クラスの絆がもっと深まるよう、積極的に行事にも取り組んでいきたいと思えた旅でした。10月の修学旅行が早くも楽しみです。



雨の中で傘をさしての見学



雨にけむる鶴岡八幡宮

### ③体育祭（平成22年度 国立競技場実施）

1年次の体育祭は、学校の校庭で実施されたが2年次は国立競技場で実施された。全く異なる環境で実施されるので、学年通信で次のような文章を掲載し、国立競技場での体育祭へのモチベーションをたかめる指導をこころみた。

(2学年 学年通信 第4号より)

今年は3年に1回の実施となる国立競技場での体育祭が、6月8日(火)に実施されます。国立競技場は、最近ではサッカーの試合やコンサート会場などとして知られることが多くなりましたが、かつて日本でオリンピックが開催された東京オリンピック(昭和39年)の陸上競技のメインスタンドとして使用された場所です。陸上競技の経験者を始めとし、当時の人達にとってみたら一度は走ってみたいと思った憧れの場所と言えるところだと思います。

そんな競技場に一歩足を踏み入れてみると、まず初めに目に飛び込んでくるのが鮮やかで手入れの行き届いたフィールド内の芝生の絨毯だと思います。誰もがそこに寝そべってみたいと思うくらい緑が鮮やかです。次に競技場の広さに圧倒されるでしょう。8コースあるトラック上を自分が全速力で走る姿を想像するとわくわくしてくるはずです。晴天の青空と芝の緑、トラックの赤がまぶしいくらいに感じられる国立競技場での体育祭を楽しみにして下さい。

さて、体育祭の準備に関してはすでに各クラスのメンバーも決まり、3年生の応援団に出場する選手の集合が行われ、各団の団長・副団長が決定しました。各団の団長をいち早く紹介します。

実は国立競技場での体育祭は施設が充実していることからリレーなどの走る競技については気持ちよく思い切り走ることができるというメリットがある反面、場所が広すぎて盛り上がりにつけてしまうというデメリットの意見もたくさんあるのが現状です。そんなデメリットを克服するのは、体育祭に積極的に参加しようとするみんなの意識ではないでしょうか。一人1種目の出場が基本の体育祭で、さらに体育祭への参加の意識を持てるのが、応援合戦です。クラブ以外で上級生や下級生と接することが出来るのも、唯一応援合戦だけです。また、運動は苦手だけど体育祭に積極的に参加したいという人もいます。そんな人は是非装飾係として参加しましょう。応援合戦も装飾もどちらも準備に時間や手間がかかりますが、だからこそ当日の体育祭の参加が充実するのだと思います。メンバー表に名前を書かなかった人も今からでも大丈夫です。友達を誘って是非参加しましょう。

体育祭当日は雨も心配されたが、曇天の中予定通りのプログラムを実施することが出来た。昨年とは違い、2年生は装飾の中心であったので各組に分かれて、それぞれ趣向を凝らした装飾で体育祭に花を添えた。色別の装飾を以下に紹介する。(学年通信 2学年 第5号より)



緑組



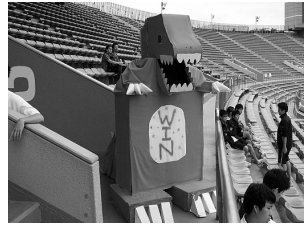
青組



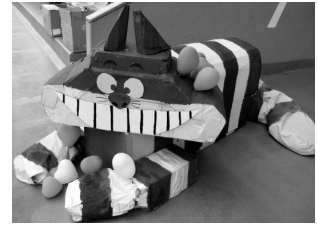
黄組



白組



赤組



紫組

体育祭結果

総合	第1位	白組	第2位	赤組	第3位	黄組
応援合戦	第1位	緑組	第2位	白組	第3位	青組
装飾	第1位	緑組	第2位	青組	第3位	黄組

④文化祭（平成22年度 国高祭「夢を運ぶ平和のかけら」）

平成22年度の文化祭は盛況のうちに終了した。2年生は演劇1クラス、ダンス1クラスで残りのクラスは、すべてクイズ・ゲームでの出し物であった。共通して言えることは、すべてのクラスがみんな楽しそうであったことである。クラスでひとつのものを作り上げることでクラスのつながりも出来たところで、この盛り上がりや修学旅行につなげられるように指導した。

各クラスの発表（第2学年 学年通信 第6号より）

1組 ダンス「KGH☆43」



今年唯一のダンス、作り上げるまでには困難もたくさんあったことと思います。でも、よくまとまったダンスを見せてくれました。何より、みんながはじけるような笑顔で踊っていたのがとても印象的でした。



## 2組 ゲーム 「幸松ママのおかまでもええやん♡」



テーマである「おかま」にあわせて趣向を凝らしたゲームがたくさんあって楽しい空間が出来上がっていました。なにより、みんなが楽しそうで、入場しているお客さん以上に楽しんでいる感じがよかったです。学年では3位でしたがおかまの中では1位だったでしょう。



## 3組 演劇 「パコと魔法の絵本」



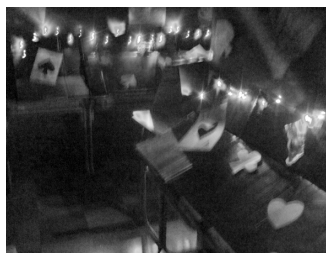
見ごたえがありました。40分という長さを感じさせない作りこみでした。キャスト一人一人の個性が伝わってきて何度も笑い声をたてて笑ってしまいました。2年生で唯一の演劇でした。ここまで作るのは苦労も多かったと思います。拍手を送りたいと思います。



## 4組 ゲーム 「Alice in Underground」



入り口が暗いのでそーっと入場すると右の写真のようにまさにアリスの世界でした。そこを抜けるとゲームができるようになっていてトランプゲームに参加しましたが本当にみな楽しそうにやっていました。



5組 ゲーム 「GIRI GIRI FIVE」



このクラスのゲームはタイトルの「ギリギリ5」通りにギリギリを感じさせるゲームでした。ぎりぎりですでに止まるゲームをやりましたが教壇を使って、よく作りこんでいました。



6組 ゲーム 「TNB42+1」



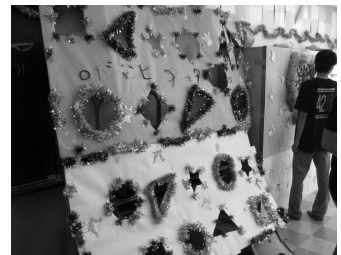
このクラスのゲームで、すごく感心したのは右の写真にある丸いテーブルです。この上にコインを倒れるまで積んでいくゲームですが、このテーブルは回っているのです。仕掛けはこのテーブルの下にプラレールが円形にあって、レールを走る電車にテーブルが付いているのです。



7組 ゲーム 「vs Seven」



このクラスの作ったボーリングゲームはよくできていました。ほかにも天井から落ちてくるパイプゲームなど理科クラスならではの作りこみの良さが光りました。



8組 ゲーム 「宇宙人小侯の魔界迷宮」



魔界迷宮の名の通り会場内は暗くて懐中電灯を頼りに進みました。何が出てくるのかとお化け屋敷感覚で進みましたが最後にクラスの生徒が出迎えてくれてほっとした感想を持ちました。



## 9組 ゲーム「のじま in ワンダーランド」



学年優勝そして総合優勝のクラスです。とにかく、その作りこみは素晴らしく内装は本当に素晴らしかったです。ゲームをエスコートする9組の生徒たちも手際よく安心して楽しめたことも優勝の要因だったのではないのでしょうか。おめでとうございます。



## 10組 ゲーム「梶野晴雄」



このクラスのテーマはカジノ。丁か半かを当てるゲームや小さな小豆をお箸で移すゲームなどみんな楽しそうに取り組んでいました。小豆を移すゲームをやりましたが、箸使いが下手なので苦労しました。



## 11組 ゲーム「HELL or HEAVEN」



このクラスはじゃんけんをしながら前に進んでいくというゲームでした。そして最後に待っていたのは右の写真のピエロ君。披露してくれたクロちゃんのものまねはとっても似ていました。



12組 ゲーム「CARNIVAL NIGHT42」



学年第2位となったクラスです。左の写真を見てもらうとわかるように装飾の作りこみは完成度が高くとても楽しませてもらいました。ゲームをしている12組のみんなも楽しそうでした。



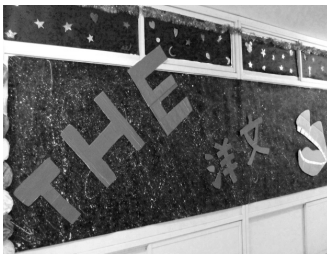
13組 ゲーム「剛 TO THE PARK」



笑顔一杯の客引きに導かれて入場すると懐かしいストラックアウトやバスケットゴールがあって、その空間はまさに剛TO THE PARKでした。



14組 ゲーム「The♡洋文♡」



いたるところに担任の名前がでてくるゲーム会場はまさにTHE洋文という感じがしました。みんなで楽しそうにゲームをしている様子が印象的です。



## ⑤修学旅行

## (1) 事前学習

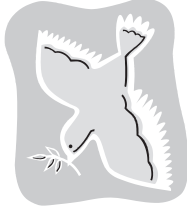
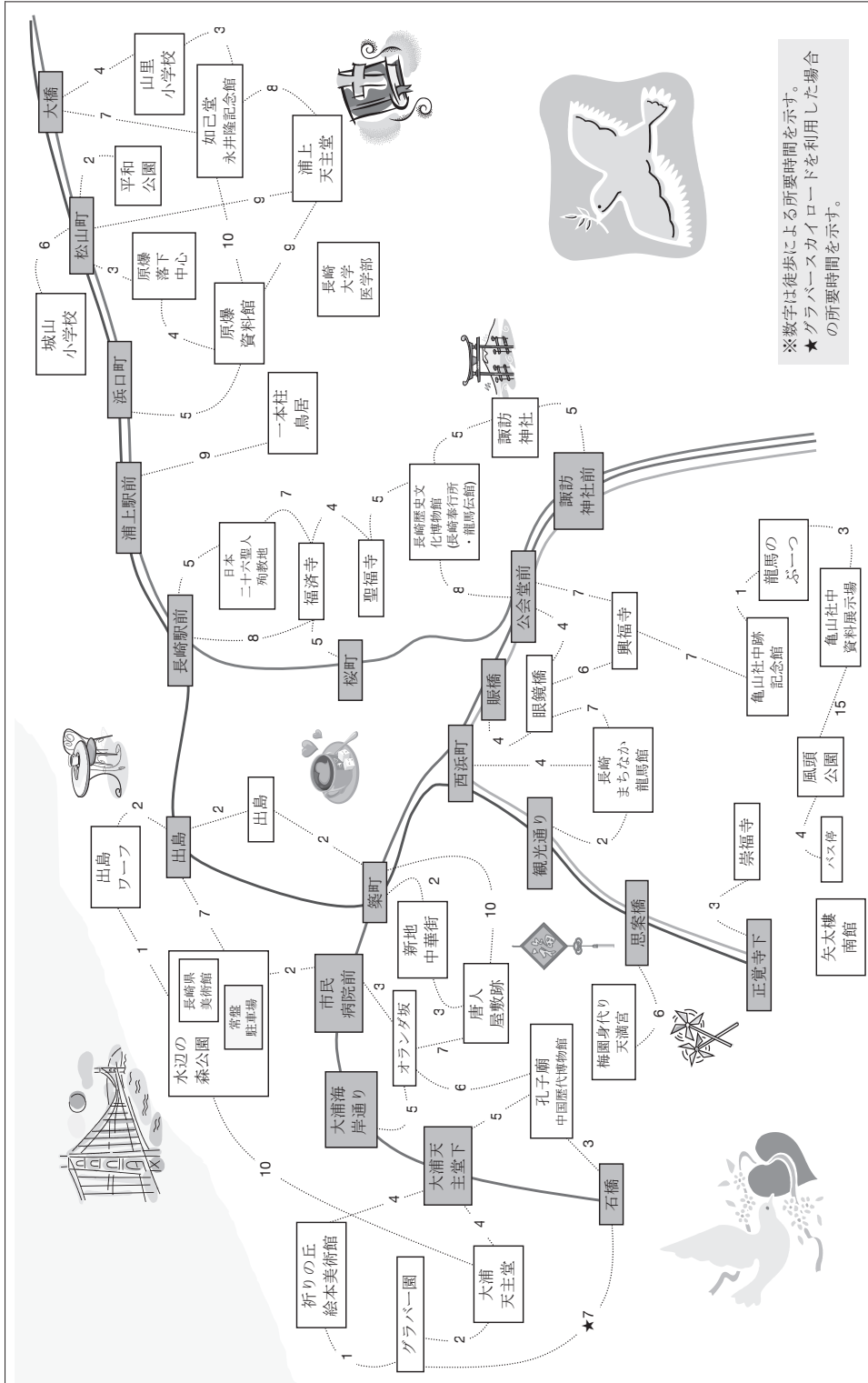
修学旅行を充実した旅行的行事にするためには、事前学習が大切であると考えて、次のような計画で事前学習の取り組みをさせた。

時 期	作 業
7月中旬	<p><b>【PART1】事前研究テーマの分担</b></p> <p>「個人で新聞作成」または「グループで新聞作成」のどちらかの手順に沿って、各クラス内で、研究テーマを分担する。</p> <p><b>X「個人で新聞作成」の場合</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 個人テーマを決める。(同一テーマの者が複数いてもOK。)</li> <li>② 「個人新聞計画表」を提出。</li> <li>③ 類似テーマ毎に、便宜的にグループわけを行う。このグループは、二学期に入ってからからの発表や葉作成の際に連携する単位となる。</li> <li>④ 各個人毎に、B4原稿用紙を受け取り、夏の学習、執筆に入る。</li> </ol> <p><b>Y「グループで新聞作成」の場合</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 4大新聞の中から、参加したい新聞を選ぶ。集った者達が自動的にグループとなる。(偏った場合は人数調整を行う。)</li> <li>② 編集長を決める。</li> <li>③ 編集会議。新聞のイメージを話し合い、グループ内で記事執筆を分担。夏休み中の打ち合わせスケジュールも決めておくといよい。</li> <li>④ 「グループ新聞計画表」を提出。</li> <li>⑤ 各グループ毎に、A4原稿用紙を受け取る。各自、夏の学習と記事執筆に入る。夏休み中、グループで集まるなど、連携が不可欠。</li> </ol>
夏季休暇中	<p><b>【PART2】「新聞制作」</b></p> <p>個人またはグループ単位で、テーマについて研究し、新聞作成や記事執筆を行う。調べたものの丸流しでない、自分なりの、生きた記事を書こう！<u>X、Yともに、提出は9月6日始業式の日に修学旅行委員へ。</u></p> <p>※新聞作成については、欄外の「作成ルール」をよく読むこと。</p>
9月～10月	<p><b>【PART3】発表およびクラス葉の作成</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 出来上がった新聞をもとに、担当毎またはグループ単位で、ホームルーム中に発表を行う。分かち合った成果は、自主研修立案のヒントにする。</li> <li>② 提出された新聞を縮刷し、ページも追加して、各クラスでオリジナルの葉を作成。自主研修立案のヒント、現地でのガイドの一助とする。</li> </ol>

## (2) 自主研修

長崎と萩では、それぞれ自主研修の予定が組まれている。事前に研修コースを決められるように資料を作り、LHRの時間をとって班ごとに考えさせた。長崎と萩の街も鎌倉校外教授のときと同じように、見学地と見学地の間の移動時間を入れた資料作りを行い、生徒たちが自主的にオリジナルのコースを作成できるように工夫した。

長崎のMAP (修学旅行のしおりより)



### (3) 感想

学校生活最大の行事である修学旅行が10月27日（水）から31日（日）の4泊5日の行程で無事に終了した。

生徒の修学旅行委員会が5月に発足し、事前学習から長い期間をかけて準備して、当日を迎えた修学旅行は本当に充実したものとなった。一番印象深いのは長崎の爆心地で、セレモニーをおこなったときの雰囲気であった。事前学習、ガイドさんのお話、そして爆心地に自らの足で立ったときに、生徒ひとりひとりが「原子爆弾投下」という事実を重く受け止めることができた。修学旅行が学びの場であるということを実感できた瞬間であった。



「長崎の爆心地で宣誓文を読むクラス代表と後ろで整列している生徒たち」

感想文 (2学年 学年通信 第7号より)

今、この修学旅行を振り返ってみると本当にあんなに遠い場所まで行ったのだろうかと思えるような気持ちになります。2日目の萩の自転車での自主研修は強い風が心地よく萩のキレイな空気を味わえました。特に印象に残ったのは桂太郎旧宅で部屋いっぱい差し込む太陽の光や、小さいながらも趣のあるお庭など時間を忘れそうなくらい穏やかな空間を感じました。部屋にかけてあった桂さんのお習字の意味を地元の人が解説してくださいました。「人は相手を思いやることによって自分もまた思いやられるんだよ。だから自分が愛されたかったら自分も他人を愛しなさい、という意味が込められているんです。」今回の旅行で一番にしみた言葉でした。4日目に原爆資料館に行きました。見るだけでぞっとするような写真や遺物がたくさんあり、なぜこの人たちはこんな目にあわせられ苦しめられ殺されなければならないのか疑問と怒りを感じずにはいられません。日本は核兵器を持っていないし世界で唯一の被爆国です。核の廃絶を訴えるのに日本ほど説得力のある国もありません。それを実行するもしないも私たちの世代にかかっているのだという強い使命感にかられました。また、修学旅行で一番つらい思い出でもあり同時に一番楽しい思い出となったのは演芸会でした。最初の2日間は練習が思うように進まず皆の気持ちもばらばらで、この企画が本当にうまくいくのかと不安で仕方ありませ

んでした。一時はなぜこんなに難しい企画を持ってきてしまったのかと思い責任感に後悔さえしました。しかし演芸会前日のバスでは唄の練習をしたり、前夜は集まって自主練習をするなど積極的になり、文化祭の時のような一体感が感じられました。舞台は完璧とはいかずとも皆で楽しんでやれたのでよかったです。最後にこの5日間を通して絶やすことなく笑顔だったバスガイドの「みさりん」が強く印象に残りました。私たちが叱られた後でも、うるさくしていた時も絶えず笑顔でいてくださった「みさりん」は、とても素敵な人に見えました。今回の修学旅行は得るものが多く、まだ苦しい道のりが続く高校生活の区切りとして新たなスタート地点として良い旅行になったと思いました。



### ⑥総合学習

1年間の総合学習は大きく3つに分かれて実施された。

- (1) 学部・学科研究 学部・学科研究新聞作成
- (2) オープンキャンパス参加
- (3) 大学模擬授業

2年生の総合学習（進路学習）は大学研究という位置づけで実施された。特に机上の研究だけでなく、大学の先生を本校に招いて、実際の大学の講義を90分間で体験させることで、大学への憧れを持たせて受験勉強のモチベーションアップをはかった。



早稲田大学 教育学部  
「教育学演習の授業を公開」



立教大学 経済学部  
「経済政策と福祉～日本と北欧」

### ⑦学年集会

2年生では旅行的行事である校外教授・修学旅行の前に学年集会を実施して、行事の意義を話し、自主的に取り組むように指導した。また、進路選択についても話をした。

### ⑧東日本大震災

2011年3月11日の東日本大震災で2年生の年度末に予定していた学校行事や学年行事がすべて中止や延期になってしまった。学年通信では震災当時の様子を次のように報告している。

(2学年 学年通信 第12号より)

『3月11日、14時46分東北宮城沖で未曾有の大地震が発生し、多くの方々がお亡くなりになりました。犠牲となった方々のご冥福を祈るとともに、今なお避難生活をされている方々が一日も早く平常の生活を取り戻すことができるように願っています。

私(学年主任)も國學院高校に勤めて約30年の生活で体験したことのないような揺れを感じました。伊豆半島で高校までの生活を送った私は伊豆大島近海地震など多くの大きな地震を体験してきましたが今回の地震はそのどれよりも大きなものでした。地震発生時間に私は会議室で打ち合わせをしていました。揺れが大きくなると同時に校庭に出ると、校舎はミシミシと音を立てて揺れ動き、このままつぶれてしまうのかと思うほどでした。揺れが収まると同時に学校に残っていた生徒、教職員が校庭に集合し、けが人がいないかどうか、校舎に大きな損傷がでていないかを確認しました。幸いけが人は一人もでることなく校舎の損傷もほとんどありませんでした。次に残っている生徒、教職員の人員確認と交通機関の運行状況など情報収集を行いました。交通機関の全面停止が確認できたところで耐震工事が終了していて暖房施設のある第一記念館(体育館)に全員で移動し安全を確保しました。その後、この日の交通機関の復旧はないことがわかると、学校での宿泊を決定し、食料の調達や家庭との連絡などに慌ただしく動き出しました。テレビの報道で東北が震源地で甚大な被害が出ていることを知るにおよび、この事態が大変なことであることに気づくとともに、けが人もです生徒、教職員が全員元気でいることに安心しました。

生徒たちの様子はこの間とても落ち着いていて人員確認の点呼や食料の配給時にも教職員に協力してくれたので、とても助かりました。教職員もこの間手分けして食料調達や情報収集、家庭からの連絡の対応など本当に協力して対処することができました。特に食糧は近隣のコンビニなどから全ての食べ物なくなるなどの状況でしたから大変でしたが、幸い日頃付き合いのある食堂やお弁当屋さんが協力しておにぎりやおかずを提供してくれたのでお腹を満たすことができました。今更ながら近所付き合いは大切であることを痛感しました。学校も近隣の付き合いを大切にしていくことが生徒たちを育てていく上で重要であると考えさせられました。生徒たちも学校周辺での行動には充分注意してもらいたいと思います。特に今回学校で宿泊した生徒たちは感謝の気持ちを持ってもらいたいと思います。

22時ごろから就寝準備に入り男子はそのまま体育館、女子は文科館に移動して23時以降、

随時眠りに付きました。とは言え、慣れない環境でなかなか寝付けられない生徒も多かったのは事実です。教職員は交替で生徒の近くに寄り添い、夜が明けるのを待ちました。私も若干仮眠をとりましたがほとんど眠ることもないまま朝を迎えました。

6時にはほとんどの生徒が目覚まし、同時に交通機関も運行を再開したとの報道があったので運行状況を確認しながら同じ方面でグループを作り、帰宅させました。8時から9時の間にはほとんどの生徒が帰路に付き大変な一夜が終了しました。

この宿泊を体験した2年生は自然の脅威を改めて痛感したことと思います。普段人間の作りだした便利なツールで生活している私たちですが自然の前では、それいとも簡単に崩れ去ってしまうわけです。地震大国である日本は今まで何度もこのような体験をしてきましたがそのたびにお互いに助け合ってそれを乗り越えてきたわけです。助け合うこと、支え合うことが生きていく上ではやはり非常に重要であることを考えさせられた1泊2日の体験であったと思います】

### ⑨2学年のまとめ

始業式当日に配布した学年通信で2学年の学年目標を3つ掲げた。まず、第1の目標である「人の話を聴く」姿勢は、1学年からの継続した目標であり、概ね達成できたと思われるが、一方で学校生活に慣れてきたこともあり、つつい、おろそかになってきた生徒もいた。第2の目標である「継続した学習習慣を身につける」姿勢は修学旅行が終了して、受験を意識し始めてから、できるようになってきた。第3の目標である「豊かな人間関係をつくり、行事に取り組む」姿勢は体育祭や文化祭を通じて学校のリーダーとして十分達成できたと思われる。

2学年進級時に585名の在籍であったが、3年生に進級した生徒は579名であった。2年生の大きなテーマは「旅行的行事の充実」であったので、春の鎌倉校外教授、秋の九州修学旅行ともに事前指導から事後指導までトータルで指導を重ね、生徒たちも貴重な体験を積んだと思われる。

## 5. 各学年の取り組み（3年生）平成23年度

### 3学年 学級編成

組	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	計
男	19	19	19	19	19	22	20	20	19	20	28	27	30	16	297
女	22	23	24	24	23	20	23	23	23	22	14	15	11	15	282
計	41	42	43	43	42	43	43	43	42	42	42	42	41	31	579
選択	文	文	文	文	文	文	文	文	文	文	理	理	理	理	

### ①学年目標

3年次の大きなテーマは、卒業学年であるために「進路実現の支援」を掲げたが、それとともに3学年の学年目標を4点あげた。

- (1) 最上級生としての自覚を持ち、どのような状況でも話を聴く姿勢を忘れずに持とう。
- (2) 3年間の学習の集大成をはかるとともに卒業後も学習を継続できるように意識していこう。
- (3) 3年間で培った友人との人間関係を大切にしていこう。
- (4) 高校生活最後の1年間で何か一生懸命に取り組むものを作ろう。

第1の目標は3年間を通して掲げたものである。常に話を聴く姿勢を持ち続けていくことは、これから社会生活を営んでいくうえでも重要であると考え、学年目標はもとより、集会などでも常に生徒たちに問いかけていたことである。

第2の目標は学習であるが、大事な進路実現の年に学習することはもちろんである。ただ、大学付属高校であることから、約200名以上が推薦入学で大学を決める現状で、多くの生徒が2学期半ばで学習から遠ざかってしまうことになる。そこで卒業後も学習を継続できるような指導をこころがけて学年目標に据えた。

第3の目標は人間関係である。2年間の高校生活で良好な人間関係を築くことができたはずなので、その関係を大切にしていこうと掲げた。

第4の目標は高校生活最後の1年間であることと、体育祭・文化祭ではリーダー的存在で國學院高校の全校生徒を導いていく立場ということを鑑みて、行事に一生懸命取り組むことを掲げた。もちろん、行事だけが一生懸命に取り組むものとは限らないので、3年生全員が、この卒業の最終学年で、何か一生懸命になることができるものを探ることができるように学年目標に据えた。

### ②進学説明会

2年生の3月に予定されていた卒業生を招いての進学説明会は震災の影響で中止になってしまった。ここでは受験体験談を話してもらおう予定だった。3年生の4月に実施された説明会は大学3年生・4年生を招いて大学における学びの楽しさをはじめ、大学生活を語ってもらった。いつもの先生の話ではない卒業生の話を聴く機会はなかなかないので生徒たちには、これから始まる受験勉強への刺激になったはずである。

### ③各クラブ活動 引退試合・引退公演

3年生になってクラブ活動も、それぞれ引退の時期を迎えた。学校内外で試合や公演会があったので、できるかぎり足を運び、生徒たちの頑張っている様子を参観するように心がけた。学年を運営していくことは指導することに偏りがちであるが、生徒たちの活動を見守ることも

重要なことである。

学年通信で報告したいいくつかのクラブの観戦記を掲載する。(3学年 学年通信 第4号より)

#### 弓道部 関東高等学校弓道大会 試合会場：明治神宮至誠館第二弓道場

弓道の試合は初めて観戦に行きました。明治神宮の奥にある弓道場は周りを緑に囲まれて、弓道をする素晴らしい環境に驚きました。観戦席は超満員で立錐の余地もないほどでした。さすがに関東大会ということもあり有力チームが数多く出場している見ごたえがありました。男女ともに出場している高等学校は東京では國學院と他2校だけでした。それぞれ出場選手は3名で、一人が4本弓を引き、1回で12本、それを2回やるので合計24本引いて的中した合計本数で予選通過が決まります。

試合会場は静寂に包まれ、矢が放たれる音が弓道場に響き渡る瞬間は何とも言えない緊張感があります。矢が的中すると観客からは、大きな声で「よし！」という掛け声がかかり、4本連続で中てた選手には観衆から大きな拍手が沸き起こります。國學院の選手も、奮闘しましたが予選通過はなりません。次のインターハイ予選にむけて、また頑張ってもらいたいと思います。



#### フォークソング部 引退演奏会 会場：第2記念館講堂

卒業生を送る会を兼ねた、三年生の引退演奏会が第二記念館で行われました。一般のお客さんと呼ばない部員だけの演奏会ということもあり。和気あいあいとした雰囲気の中、それぞれが素敵な演奏と歌を披露しました。特に、今回で引退する三年生の気持ちのこもった演奏は素晴らしいものばかりでした。



#### ④体育祭（平成23年度 本校校庭実施）

体育祭も3回目を迎え、リーダーとなって下級生を導きながら、体育祭を盛り上げていく立場になった。応援合戦や集団演技の準備から実施まで、よく協力してやり遂げることが出来た。特に各色の応援団長には、より一層のリーダーシップをとり、後輩を導き、団をまとめてもらったかったので団長一人一人に神社のお守りを渡して激励した。

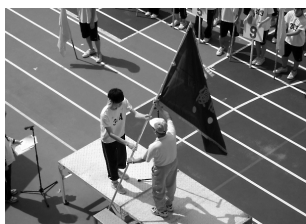
学年通信で報告した体育祭観戦について掲載する。(3学年 学年通信 第5号より)

今年度の体育祭は雨で1日順延となり、6月9日(木)に本校校庭で実施されました。時折、晴れ間ものぞく空模様は体育祭には絶好のコンディションとなり、校庭は1日中、生徒たちの弾ける声に包まれていました。

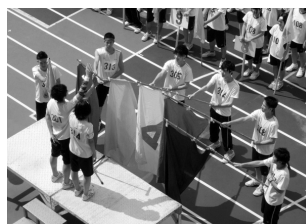
開会式は、全校生徒が色別に分かれて整列し、入場行進を見守りました。國學院高校の校旗を持って行進したのは8組の山中翔くんで、そのあとにバトン部、各ブロックの応援団長そして各クラスの代表生徒と続きました。昨年は白組がブロック優勝をしたので白組応援団長から優勝旗の返還が行われました。選手宣誓は1組の武藤圭汰さんと14組の吉住舞子さんが元気よくおこない、その周りをブロック旗を持った応援団長が囲みました。



全校生徒が整列



優勝旗の返還



選手宣誓

体育祭は文化祭とは異なり、学年を越えて色別のブロックを作り、競技を行うため、3年生が中心となって、先輩・後輩のつながりが密接になる行事です。今年度も3年生がリーダーとなって実施された応援合戦は、例年以上に盛り上がりを見せました。やはり、昨年、一昨年と先輩たちから受け継がれてきたものが伝統となっている感じがしました。どの色も応援合戦が終わった後の表情は達成感に包まれていました。学年当初に掲げた学年目標である「一生懸命取り組むものをもつ」ということに関しては、まさに実現できたことと思います。本当によく頑張りました。

応援合戦の優勝は青組でした。青組は今までにない演出で、芸術性も高く、素晴らしかったです。しかし、どの団もみんな、よくまとまり、よく声を出し、そして何より一生懸命取り組む姿勢はとても良かったです。だからこそ、体育祭が盛り上がる事ができたのだと思います。



青組 応援団長



黄組 応援団長



白組 応援団長



紫組 応援団長



紅組 応援団長



緑組 応援団長

体育祭のもう一つの華は3年生の集団演技「国高体操」です。集団演技が実施されるのは3年生だけで、3年間の体育の授業の集大成となっています。もちろん1年生から準備したわけではありませんが3年間の体育の授業を通して学んできたこと、取り組んできたこと、特に同じ学年の生徒たちが力を合わせて一つのものを作り上げることの発表の場なのです。それは体育の授業にとどまらず、國學院高校で学んできたことを、ひとつのかたちにする格好の場というわけです。学年目標にも「友人との人間関係を大切にしていこう」というものがありました。男子・女子ともに全員で一つの作品を作り上げることができたことは、良好な人間関係が学年の生徒たちの間にできていたからだと思います。男子のダンスで、遠藤くんのリーダーシップにみんなで答えたことや、組体操のピラミッドの時、みんなで成功させるんだという思いが観ているわれわれ教員にも伝わってきました。女子のダンスでは、最後に全員で、本当に楽しそうにダンスしている姿に思わず微笑んでしまいました。3年生の学年としての力を観ることができて本当に良かったです。



ダンスリーダー



男子組体操  
9組 ピラミッド



男子組体操  
2組 ピラミッド



女子ダンス 12組



女子ダンス 2組



女子全員でダンス

### ⑤講演会

3学年では著名人を招いての講演会が企画されているので、この学年の生徒たちにどのような講演を聴かせるかということから考え、講演者の人選をした。折りしも、東日本大震災直後ということもあり、防災の専門家で、防災システム研究所所長の山村武彦氏を招いて講演をしてもらうことにした。

講演をしてもらうにあたり、事前の準備として、学年全員が「震災を体験して感じたこと」と題した文章を書き、クラスに掲示した。他の人々の様々な考えを知ることで、自分の考えを深めることが出来ると考えたからである。

#### 「震災を体験して感じたこと」 3学年 学年通信 第5号より

私は、東日本大震災を体験してみて、今思うとあの3月11日の自分は何が起こっているのか分からなくてただ動揺しているだけだったなあと思います。地震が起こった時は、部活の最中で、震度が大きいと感じたとたん、みんなパニックになって周りを考えている余裕もなくなってしまふほどでした。

学校に一泊したので、ニュースを見ることもできず、世の中が大変なことになっていると気づいたのは、翌日テレビでした。報道されていることが本気で信じられませんでした。落ち着いた今でも、現地に行けば、驚きを隠せないと思います。色々ショックなことは重なったけど、唯一、家族の大切さを再確認する機会になったのは、良かったと思います。地震が落ち着いたとき、安否が心配だったけど、家に帰ることもできず、不安だったところを父が様子を見に来てくれて、あの時は驚きと同時に安心感から生まれました。普段は近くにいる、あたりまえのように感じるけど、東北の人たちはその感覚が薄れたと思うので、もっと普段から家族が元気で側にいる幸せを感じて過ごしたいと思います。そして、東北の人たちのつらさを忘れずに、できることは身近なことからやっていきたいです。

#### 「巨大地震から学ぶもの」 3学年 学年通信 第6号より

7月12日（火）、現場主義、危機管理対策の第一人者といわれる、「防災アドバイザー」山村武彦さんによる講演会が実施された。

日本列島は、とても災害が多い国である。そのわりには、しばらくすると現実の痛みを忘れてしまう傾向がある。最近では、頻発する余震に慣れてしまっている。この傾向は良くない。もっとも我々は日頃、地震時「机の下にもぐること」が当たり前だと思っている。しかし、その常識も考え直そう。特に3月11日の震災を経て、日本の社会は変わった。災害対策を通して日本人は、日頃失った助け合いの大切さという価値観を取り戻せるのではないか。そうして、もっと危機管理能力を高めていこうではないか。

たとえば、震災前にはあり得なかったライバル企業同士の協力が震災後に行なわれた。企業への終身雇用を希望する人々が増えた。これらは個人主義に陥りつつあった社会が、協力して

生きていこうという表れである。

「津波ハザードマップ」を過大評価したことで多くの人々が亡くなった石巻大川小学校。かたや、570人が助かった釜石東中学校の例から得られる教訓。それは、常に最悪の事態を想定して備えておくことの大切さである。現場の写真や映像から、訓練を怠る怖さと、「エキスパートエラー」「正常性バイアス」「集団同調性バイアス」といった右に倣えになりやすい危険を指摘された。また、日常の対策としてよく言われる「地震のときは机の下に隠れましょう。」等の常識は間違いであることも多々ある。正しい行動は「閉じ込められない場所、安全な場所に移動できるようにすること。」である。机の下で家もろとも潰れてしまった現場をたくさん見ている。机の下の話は一例に過ぎないが、大規模震災に備えるときの心構えは、現実在即した訓練を常に怠らないことである。

そして、いつも最悪の現実にも備える心があれば、助けを待つ側から、助ける側になれる。皆が協力して生き抜くという価値観を取り戻せる。最後にブラジルでの災害現場を紹介した。母がわが子を守ろうとして亡くなった話だった。災害現場をまわるうちに、人生の価値とは何かを考えさせられる。皆さん、「もしも、震災でどうすることもできないとき、自分が本当に守りたいものは何ですか。今回の講演を通して考えてみてください。」講演の要所に述べられた、「想定外とは、備えなかった者のいい訳である。」「最悪の事態に備えよ。」「震災対策は、生き抜くための人生への対策である。」という言葉が印象的であった。

## ⑥勉強合宿

この学年から始まった行事で、希望者を対象とした勉強合宿がある。合宿の目的は大きく分けて2つあり、ひとつは勉強漬けの生活を送ること、もうひとつは受験勉強に本気で取り組む気持ちを作り上げることであった。そこで、この合宿では、「3泊4日を通して、友人の頑張る姿を見ながら自分も頑張ろうと切磋琢磨し、あと一步の努力を惜しまないような人に成長しよう」という目標を掲げた。実際に、勉強漬けの生活を送る中でやらされているのではなく自ら努力する姿勢が強く、この雰囲気全体を包み込み、集団生活をするからこそその相乗効果が見られた。



## ⑦文化祭（平成23年度 国高祭「REWRITE」）

平成23年度の文化祭は盛況のうちに終了した。3年生は模擬店5クラス、縁日5クラス、お化け屋敷4クラスで参加した。3年生は自由参加でありながら、どのクラスも積極的に参加していることは、学年目標である前向きな行事への取り組みができてきているということである。受験を控えた大事な磁気ではあるが、國學院高校での最後の行事に3年生が活躍する姿は学校全体を活気付けていると思われる。

各クラスの発表（第3学年 学年通信 第8号より）

### 1組 お化け屋敷「Sweet Home」

入場する前の説明から怖かった。ブザーとともに次の扉が開くなど作り込みが素晴らしかった。でもやっぱり中で何も言わず立っている人が一番怖かった。



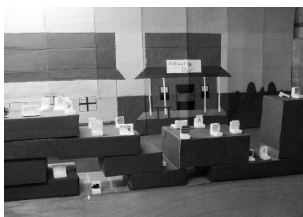
お化け屋敷の前の説明



廊下装飾も怖い

### 2組 縁日「Movi Ennichi」

ムービー縁日ということで映画に関する装飾やハリポターの衣装で客引きをして楽しませてくださいました。ラムネは冷えてておいしかったです。



縁日の定番射的です。



男の子の絵が印象的

### 3組 模擬店「カズオくん、節電中」

店のタイトルに惹かれました。思わず入ってみようかなと思わせるネーミングは大事ですね。ゴールデンバナラの味は甘くて、とっても美味しかったです。それからクラスTシャツのデザインもすごくよかったです。



これがゴールデンバナラ



アイス屋さんらしい装飾

4組 模擬店 「Cokco 壺番館」

廊下の装飾のきれいさに驚きました。他の模擬店はデザート系が多かったため、がつつりカレーを食べることができるこの店は繁盛していました。



ナンとカレーの相性ばっちり



とっても目を引く廊下装飾

5組 お化け屋敷 「幽子の館」

ここのお化け屋敷も怖かった。中に入ると、とにかく効果音が怖さを誘い、途中四つん這いで進む時あまりの恐さに心臓バクバクでした。



あまりのこわさにお化け屋敷内を撮れなかったので5組のスナップ



幽子お館というネーミングがよかったです。

6組 模擬店 「世界まるMIE」

餃子ドッグがとっても美味しかった。世界の国旗が装飾にちりばめられていて工夫されていました。「世界丸見え」と美永先生をかけていたネーミングも良かったです。



これが美味しかった餃子ドッグ



世界の国旗がきれいでした。

7組 縁日 「設楽市楽座一僕と浴衣と時々、縁日」

ここ縁日は中身がいろいろ工夫されていて、よく作り込んでいるなあと感心しました。閉祭式の学年優勝と発表された時に思わず納得しました。おめでとうございます。



おみくじブースの出来栄上々



スタッフもみんな楽しそうです。

### 8組 お化け屋敷 「功—isa—」

お化け屋敷に入る前に説明があり、入る前から怖さをそそられました。中に入ると怖さの連続で、いい歳をしてギャーギャー騒いでしまいました。廊下装飾の担任の先生の顔はとてもよくできていて素晴らしかったです。



お化け屋敷の中にあつたお墓です。



担任の顔が怖さを演出

### 9組 縁日 「はるおのなつやすみ」

とにかく夏休みらしい演出がほどこされていて、みんな楽しそうでした。ポップコーンのコンソメ味を食べましたが香ばしくて、初めての食感で美味しかったです。



楽しい雰囲気が伝わってきます。



クラスTシャツと一緒に♡

### 10組 お化け屋敷 「ゴーストパラダイス～怖ざかりの君たちへ～」

ここのお化け屋敷は下から手が出てくるので怖さが倍増しました。他のクラスが懐中電灯なのに対して、ここはランタンなので手元しか照らすことができず、これが怖さを招きました。



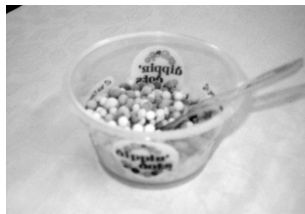
お化け屋敷の中です。これが動きそうでこわいんです。



蜘蛛の巣をあしらった装飾

### 11組 模擬店 「f3 café dx」

この店で食べたストロベリーアイスはカップの中にBB弾みたいな小さな粒がいっぱい入っていて、これがアイス？と思いました。が食べてみると下の上でアイスが広がり、とっても甘くて美味しかったです。



これが口の中で溶けるアイス



商品とマッチした装飾です。

12組 模擬店 「ハ和イアン Cafe」

この店で食べたチュロスは他の模擬店にはないもので新鮮でした。文化祭で食べるから、また格別な美味しさであったような気がします。ごちそうさまでした。



望月くんが持っているのが美味しかったチュロスです。



おしながきが海の家風です。

13組 縁日 「おまたせ!? 大ちゃん祭り」

ここで食べたポップコーンは「のり玉味」をチョイス。ポップコーンに色々な味があることを知りました。内装もいろいろ凝っていて楽しい縁日でした。



すみません。写真が1枚しかありませんでした。クラスTシャツのデザインも良かったです。

14組 縁日 「めっちゃ<sup>2</sup>えんにち」

縁日内に飾られた大きなやぐらが印象的でした。りっぱなたたずまいは文化祭レベルでは素晴らしい出来栄でした。マンゴー味の綿飴も美味しかったし、國學院キューピーもかわいかったです。



縁日内に作られたやぐらです。



キューピーが綿あめ持ってます。

⑧進路指導

2学期から本格的に受験準備に入る生徒たちに対して様々なサポートを企画して実行に移した。

(1) 出願指導

現役生の場合は成績が安定しないために出願指導を重要であると考え、どのように受験校を組み立てるかを指導するための説明会を開いた。生徒には受験計画表を配布し三者面談で出願指導をおこなった後に計画表の提出を義務付けた。

(2) センター対策

現役生がセンター対策をしっかりしてから、本番に望むことが出来るような説明会を文系・理系に分けて開いた。内容は各教科担当からセンター試験の「傾向」と「これからの1ヶ月何

をすべきか具体的に」「今から少しでもセンター対策をすれば点数があがるかもしれない」と思える話をした。

### (3) 進路内定者への学習継続の働きかけ

「日本の未来を支えるのは君たちだ！」

このタイトルは11月に実施された進路内定者に対して実施した特別講習のタイトルである。大学付属高校である國學院高校では11月までに指定校推薦、國學院大學系列推薦、公募推薦、AO入試などでクラスによっては半分以上の生徒の進路先が内定する状況である。2学期後半以降、一般受験に挑戦する生徒たちにとって、クラスの雰囲気が受験勉強というムードではなくなるのが非常にマイナスであることを考え、進路内定者にも学習の雰囲気を持つことが出来るように特別講習を受講させることにした。

担当教員	講座名	内容
星野先生	『いのちの初夜』を読む	らい病を患いつつ、絶望の中で命の有様を見つめた、北条民雄の作品を読み、これからの人生においていかせることをつかむ。
佐藤先生	ユダヤ人	ユダヤ人の歴史と経済を学び、ユダヤ人に関する研究レポートを作成する。
大橋幸先生	①敬語トレーニング ②情報化社会について	①『電話を受けるときの対応』について ②問題文を読んで自分の考えを述べる
小林先生	プレゼンについて学ぼう	Appleの創業者、Steven Paul Jobsのスピーチを聞き、これまでのJobsのプレゼンから学ぶ。班を作り発表する。
野島先生	人生と言葉	英語の歌詞を読む
田辺先生	解剖実験および発表	解剖とパワーポイントによる発表

## ⑨進路状況

☆國學院大學無試験推薦	129名	☆國學院大學選抜推薦 (法学部)	
文学部		正規合格者	33名
日本文学科	24名	繰上合格候補者	34名
外国語文化学科	13名		
史学科	18名		
哲学科	7名	☆指定校推薦	75名
神道文化学部			
神道文化学科	3名	☆公募推薦	14名
法学部			
法律学科	9名	☆AO入試	8名

経済学部

経済学科	14名	☆専門学校・就職	10名
ネットワークング	8名		
経営学科	12名		

人間開発学部

初等教育学科	14名
健康体育学科	7名

☆大学合格数

国公立大学	東京工業大学	1名	千葉大学	1名	首都大東京	2名
	東京藝術大学	1名	電気通信大学	1名	信州大学	2名
	山口大学	1名	横浜市立大学	1名	徳島大学	1名
私立大学	早稲田大学	17名	慶應義塾大学	6名	上智大学	18名
	東京理科大学	11名	明治大学	32名	青山学院大学	32名
	立教大学	28名	中央大学	29名	法政大学	31名
	学習院大学	18名	成蹊大学	31名	成城大学	20名
	明治学院大学	45名	日本大学	32名	芝浦工業大学	11名
	東京都市大学	14名	北里大学	9名	昭和大学	3名
	東邦大学	5名	など			

⑩卒業式

平成24年3月1日に第64回卒業式が実施された。前日の予行は雪の中でおこなわれたが、当日は晴天に恵まれ、574名の卒業生は笑顔で卒業式を迎えることが出来た。「威風堂々」の音楽にのり、卒業生全員が入場すると、張り詰めた式場は、さらに静まり返り、静寂に包まれた。賞状、記念品授与から卒業生総代答辞まで全員でひとつになって卒業式を作り上げたのである。私は卒業式に配布された國學院広報のなかで、卒業生に「最後の手紙」と題して、次のような言葉を贈っている。

「第六十四回卒業生の皆さんご卒業おめでとうございます。三年前の入学式当日に配布された広報で、私は『心の声』というタイトルで新入生に贈る言葉を書きました。自分自身の「心の声」に耳を傾けて、自分のすべきことを考えていってほしいという内容でした。入学して三年が経過して、卒業を迎えようとしている今、みなさんは自身の心の声に耳を傾けることができただしょうか。

振り返ると、この三年間の間には、様々なことがありました。一年生のときは新型インフルエンザ騒動があり、多くのクラスで学級閉鎖がありました。二年生の終わりには大震災が起これ、学校で一夜を明かした生徒もたくさんいました。さらに三年生のはじめにかけて、多くの

行事が中止になりました。社会全体で変動の幅が大きかった三年間ですが、みなさんは、自分のすべきことを、しっかりとこなし、確実に成長してきたと思います。

先日、新聞のコラムでテニスプレイヤー錦織選手のお父さんの言葉が次のように掲載されていました。「もう、いい大学、いい就職という時代じゃないでしょう。私たちの時代とは違い、これからは人より秀でていることを個性にして生きる世の中だと考えていた。」

高校を卒業して新しい世界に飛び出してくみなさんも何かひとつ自分の自信となるような個性を身につけられるように研鑽を積んでもらいたいです。そのためには自分が一生懸命に没頭できるものが必要でしょう。それが何であるか、卒業を控えてもう一度自身の「心の声」に耳を傾けて、考えてみると良いのではないのでしょうか。

最後に、私も卒業生に、どんなはなむけができるのか自分自身の心の声に問いかけてみた結果、卒業生五七四名全員に、手紙を書くことにしました。ひとりひとりの顔を思い浮かべながら、心をこめて書いたので、受け取ってください。」

574名全員に手紙を書くことは、とても大変な作業であった。しかし、3年間の学年運営をしてきた証のようなものを残したいという思いから考えついたことである。学年主任は全クラスの担任であるという気持ちで、全員にはなむけの言葉を贈ることが自分の使命のような気がしてならなかったのである。

### ⑪ 3学年のまとめ

始業式発行の学年通信では学年目標を4つあげた。1つめは「話を聴く」ことであり、毎年第1の目標に掲げたことである。3年生は進路実現の時期であり、落ち着いて話を聴くことが出来ないときもありましたが大事なところでは、しっかりと耳を傾けることが出来たと思われる。2つめは「学習の継続」である。これについては進路内定者に対して特別講習を実施するなどして、継続した学習習慣を指導したので進路内定者も学習を意識できたはずである。3つめは「人間関係を大切にすること」である。3年生になってから友人関係も広がり、國學院高校で生涯かけがえのない仲間をつくることができたはずである。4つめは「一生懸命に取り組もう」である。これは体育祭・文化祭ともに3年生がリーダーとなって学校を盛り上げたことで成果を挙げたと思われる。

3年生がスタートしたときは579名であったが、最終的に574名が3年間の課程を終えて卒業を迎えることになった。

## 6. 学年通信「牛歩」

この学年報告の大部分は学年通信「牛歩」の文章から成り立っている。学年の生徒たちの3年間の歩みを記録し、伝えるとともに、学校の様子が伝わりにくい各家庭にも伝えるために3年間継続して発行した。牛歩のごとく生徒たちがしっかりと3年間歩んでもらいたいという思

いがこめられたタイトルである。

## 7. 3年間のまとめ

國學院高校は学年色の強い学校である。生徒たちが取り組む様々な事柄は、概ね学年が中心になって運営されていく。したがって学年主任として各部署と連携をとりながら、様々な事柄を進めていく必要があった。また、生徒たちの活動を見守り、3年間しっかりと育てていく姿勢も重要であるので教員目線だけではなく、生徒目線で様々な事を取り組んだ。

1学年の時には、なかなか学校に慣れずにリタイアしてしまう生徒も出やすいので、特に保健室やカウンセラーのところに足しげく通い生徒のフォローをしていった。協力していただいた養護教諭には心から感謝している。2学年の時には修学旅行があるので旅行的行事の充実をはかり、生徒の満足度を高めようと旅行先にはプライベートも含めて何度も足を運び準備を重ねた。3学年の時には進路実現を充実するために進路マニュアルを作成し、先生方の進路指導をサポートしつつ、特に気をかけたのは進路内定者への指導である。われわれ教員が考えている以上に進路内定者が出てからの教室の雰囲気はガラッと変わり、一般受験を目指す者にとって大きな足かせになるのである。そこで特別講習や面談などを通じて学習の継続性をはかった。

3年間を終えて、もう一度学年主任をやってみたいと思ったのは本当のことである。574名の生徒たちの成長を見守ることが出来た3年間はとても幸せであった。そういう感想を抱くことが出来たのも3年間、この学年を支えてくれた3学年の先生方、および他学年の全先生方、職員の方々の協力にほかならない。その方々への感謝の言葉をもって学年報告の結びとする。